



梅ヶ島災害50年記念碑除幕(10月12日)

梅ヶ島災害50年事業実行委員会(委員長:犬飼一博静岡河川事務所長)は10月12日(水)、昭和41年9月25日の台風26号による土砂災害から、今年で50年目の節目になるのを契機として、「過去の災害を後世に引き継ごう」と、梅ヶ島温泉地内と大河内中学校の2箇所に記念碑を建立し、それぞれ除幕式を行いました。



関係者により除幕式が行われた記念碑(梅ヶ島温泉地内)



挨拶する藤井一宝くん

梅ヶ島温泉地内で行われた除幕式には、国、県、市や関係者総勢約100名が出席し、式の最後に挨拶した梅ヶ島中学校生徒会長の藤井一宝くんは、「自分たちの身は自分たちで守れるように、避難場所の確認や災害対策をしっかりやっていきたい。今回学んだ事を決して忘れず、後輩達にも語り継いでいきたい」と述べました。



関係者により除幕式が行われた記念碑(大河内中学校)



大河内小学校児童による合唱

大河内中学校で行われた除幕式は学校の児童生徒らが出席し、坪井晃一郎校長は「大河内地区は、住民の結び付きが非常に強い地域と感じている。我々学校関係者も地域の一員として、有事の際には力を合わせて協力していきたい」と挨拶されました。最後に今夏、全国大会で上位入賞を果たした大河内小学校の音楽ユニット「おちゃっ8°」により合唱が披露されました。

記念碑の建立は、梅ヶ島災害50年事業の一環で、記念碑には、6月に開かれた防災講演会で学習発表や未来へのメッセージを述べたそれぞれの小中学校の児童生徒らの記念写真などが盛り込まれています。

静岡経済同友会が安倍川砂防管内を視察

10月23日、静岡経済同友会静岡協議会の方々が静岡市の安全を支える大谷崩の法面对策工をはじめとする安倍川上流域の砂防事業を視察しました。参加者からは「自然災害への対応が何より重要。」「過酷な現場の様子を見ることができ、よい体験ができた。」などの感想意見を頂きました。



大谷崩展望箇所にて



東南斜面中腹にて



法面对策工事現場を作業台より望む



紅葉が始まった大谷崩



梅ヶ島災害50年記念碑にて



有東木地区の集落と工事現場を望む

静岡西RC今年も大谷崩で植樹体験

10月30日(日)、静岡西ロータリークラブの総勢73名が大谷崩で植樹体験をおこないました。当日はあいにく霧の中、肌寒い天気となってしまいましたが、紅葉の中で苗木作りから植樹まで心地よい汗をかきました。

同クラブの植樹は大谷山腹工の工事着手と同時期から活動が始められ、今年で29回を数えます。長年の活動が評価され、昨年度には「土砂災害防止功労者」を受賞しています。

大谷崩には毎年多くの方が見学、植樹活動に訪れており、対策工事は地域の皆さまとともに進められています。



編集後記

紅葉が深まる11月11日(金)～27日(日)、「赤水の滝」がライトアップされます。初めての開催と聞いており、今から楽しみです。

ライトアップタイム：午後4：00～午後8：00

駐車場、仮設トイレ有り

主催：梅ヶ島温泉郷赤水の滝ライトアップ実行委員会

皆様からの情報やご意見を募集します。

Tel:054-269-2003、E-mail:http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/05_jigyou/02_office/toiawase.html



「赤水の滝」